小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人松涛会	代表者	斎藤 妙子
事業所名	小規模多機能型居宅介護 やすらが丘	管理者	野端 佳恵

法人・ 事業所 の特徴 ー人ひとりのケアを大切に利用者の意思を尊重した介護支援を 目標に実施して参ります。「あなたの歓びがわたしの生きがいで す」をスローガンとしています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	1人	1人	1人	人	4人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	改善に繋げていく。情報の共有化	情報共有については、伝達ノートの活用やミーティングの工夫で改善されてきている。職員間の仕事への温度差は課題があり、勉強会等を通じて徐々にレベルアップできるとよい。	いろいろな取り組みをしている事 はわかるが、具体的でわかりやす い改善計画を立て実践する必要が ある。	人権・プライバシー、利用者主体の介護の在り方についての勉強をする。マナーチェック表等を活用し、丁寧な言葉遣いを習慣化していく。職員間でも敬意や節度を持った働きやすい環境を整え、離職ゼロを目指す。
B. 事業所の しつらえ・環境	面会の制限がいつ解消になるか分からないが、制限が続いたとしても、気軽に来所でき、顔を見ることができる雰囲気は保っていく。	コロナ禍で面会制限があった期間も、ド ア越しでの面会等工夫が出来た。 環境整備や整理整頓にも取り組めた。	国道沿いに立地しており、離設リスクの高い利用者もいる。鍵がかかっていることがあるが、かけずに済む工夫を検討中である。	地域やボランティアの方に来ていただける事業所となる。職員が明るく、笑顔で対応できるように取り組む。
C. 事業所と地域の かかわり	トには積極的に参加していくし、 役割を求められれば、果たしてい	コロナも5類となり、地域との関わりが 徐々に持てるようになった。高齢者施設 が多様化し、施設の特色・違いが分かり にくいため、地域の方に知って頂く工夫 が必要。		地域の方に知って頂くしいの目学
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	者の方が大半なので、機会を見つ	神輿など地域のイベントに参加すること ができた。お花見やリフレッシュパーク	外出やイベント、子どもとの交流 は活力になるため今後も積極的に 取り組めるとよい。感染対策や感 染症の流行には注意しておく必要 がある。	社会に出る事は生きる意欲に繋がる。今後も積極的に地域に出向 き、交流を深めていきたい。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	先ずは、運営推進会議を開催し、 地域包括の職員や民生委員の方と の関係を構築していく。それか ら、やすらが丘に求められている 役目を探っていく。	地域の情報交換はしていたが、具体的な 事例検討は出来ていなかった。今後地域 の心配な方等の事例検討を通し、事業所 が地域の役に立てるようになるとよい。	民生委員の方には困っている方が おられたら、橋渡し役をお願いし たい。事業所として地域に貢献で きることをアピールしていけると よい。	やすらが丘の特性をPRし、認知度を高めていく。地域の心配な方等の事例を通して、地域に貢献できる事業所となる。
F. 事業所の 防災・災害対策	年2回の火災に対する避難訓練以外にも、BCPの整備に伴う、職員への役割分担、必用物品の備蓄を行い、地域の防災拠点の役割を担えるようにしていく。	コロナ禍もあり、自施設での防災訓練しか行えていなかった。地域と協力して防 災対策に取り組む必要がある。	安岡地区自治会主催の防災研修会や訓練に事業所として参加する事で、いざという時の協力関係を築いていけるとよい。やすらが丘が一時避難所として地域住民を受け入れてくれると安心できる。	消防団や地域の方に共に防災訓練に参加していただけるよう。少し